

第 163 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：平成 30 年 12 月 17 日（月） 13：30～15：17

場 所：浜田公民館第 1、第 2 研修室

出席者：石本教育長 藤本委員 宇津委員 金本委員 花田委員

事務局 佐々木部長 古森課長 湯浅室長 市原課長（欠席）

牛尾室長 村木課長 長見所長 外浦課長

村瀧室長（代理：三浦係長） 原田分室長 佐々尾分室長

三浦分室長（欠席） 小松分室長（欠席） 古城係長

書記：日ノ原係長 皆田主任主事

議事

1 教育長報告

2 議題

- (1) 教育委員会委員の視察研修について（資料 1）
- (2) 浜田市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について（資料 2）
- (3) 浜田市教育委員会事務処理規則の一部を改正する規則について（資料 3）
- (4) 教育長の職務に専念する義務の免除の承認について（資料 4）
- (5) 浜田市指定文化財候補について（資料 5）

3 部長・課長等報告事項

4 その他

- (1) その他

1 教育長報告

石本教育長

やっと冬らしくなり、寒い日が続くようになった。また、これからインフルエンザ等も流行してくるであろうと思うが、委員方も体調管理等には十分ご注意くださいと思う。

先週木曜日の夜に、突然の訃報が入ってきた。委員方もご承知の様に、前浜田市長の宇津徹男氏が、12月13日の夜9時24分に浜田医療センターでお亡くなりになったという連絡が夜11時過ぎ頃に入った。宇津先生は、27歳の時から県議会議員になられて、7期連続で当選され、その後、浜田市長になられ、旧浜田市の市長そして合併した新浜田市の市長ということで、市長としては通算17年半の間務められ、本当に偉大な政治家であったということ

である。

私も、総合調整室というところに在籍させていただいたので、宇津前市長と色々と行動を共にすることが多かった。厳しいこともあったが、本当に優しい、きめ細かい配慮もできる素晴らしい方で、亡くなられたことは本当に残念でならない。心からご冥福をお祈りしたいと思う。

今夜が通夜で、明日が葬儀ということである。2月の下旬辺りに市葬を予定しているということも聞いているので、委員方にはその時にまたご案内させていただこうと思う。是非、ご出席いただきたいと思っているので、よろしく願いしたい。

それではお手元に配付している1枚紙に基づいて、この1か月間を少し振り返る。

- ① 11月21日（水）162回浜田市教育委員会定例会（2階会議室）
前回の定例会を11月21日に開催をした。
- ② 11月22日（木）島根県立浜田高等学校への中高一貫校設置推進期成同盟会（中央図書館）

事務局は教育委員会にあるが、市長と副市長と私がオブザーバーということで参加させていただいた。この会議の前段として、実は11月18日に県の教育委員会が主催をして、公聴会が浜田市合同庁舎で開催され、その時に、県立高校魅力化ビジョンの案というものが示されており、県から説明があった。これについては、2年くらい前から高等学校のあり方検討会という会議でずっと検討されていたものが、今年の3月に提言として県の教育委員会に提出されていた。その中に、中高一貫教育のことも書いてあったが、この中高一貫教育は併設型の中高一貫教育ということになるのだが、島根県の教育の方針には馴染まないといった様な、否定的な提言であった。それを受けての今回の県のビジョン案であるので、この中においても、前回と同じ様に中高一貫校については厳しい内容のものがあった。

そういった県の説明を受けての、11月22日の期成同盟会会議であった。その会議の中で最終的に、浜田高校の学力を上げるために、併設型の中高一貫校を是非設置したい、学力を上げるためにはこれが最善策であるといった様なまとめがされた。

しかしながら、県の教育委員会が消極的な態度を取っている中で、市町村から県へ申し入れをしても中々前へ進むことはないであろうということで、少し、県の動きを継続して見守って

いきたいという方向性が出たところである。

組織は残しながら、中高一貫校についてはあきらめるのではなく、少し県の情勢を見たいといったことで、その会議は終わっているところである。ただその後、浜田高校の同窓会の中で、もう少し積極的に動くべきではないかといった話も出ていと伺っている。

③ 11月25日（日）2018 しまね映画塾 in 浜田・作品発表上映会（石中央文化ホール）

作品の発表上映会があった。今回、7つの作品が上映されたのだが、その中で文化振興課の山本係長が脚本を書かれた「残したい～幻の広浜鉄道今福線～」という映画が、作品賞という最優秀賞に選ばれ、尚且つ、当日来られた観客の方が投票をされたのだが、その中でも1番の支持を得て、観客賞という賞も取られたということで、トップと2番目の賞を山本係長が脚本を書かれた作品が取ったということがあった。

この「残したい～幻の広浜鉄道今福線～」については、地元の人が旧浜田だけでなく、金城と旭も含めてこれを守りたいということで色々な活動をされているが、そういったものを題材とした映画であった。私も7作品観たが、確かにこの作品が一番良いかなと思ったところである。

④ 11月28日（水）平成30年度全国中学校体育大会第49回全国中学校体操競技選手権大会浜田市実行委員会総会（県立体育館）

今年の8月に行われた全国中学校体育大会体操競技選手権大会の浜田市実行委員会の、全て予算的なものも経理が終わってまとめができたので、解散総会ということで行われたところである。

大会については今までもお話をしている様に、旭中学校や第一中学校の地元の生徒の活躍で大会も大変に盛り上がったし、それから地元の中学生、そして中学校の先生方の大会運営が素晴らしかったということで、外部の方から高い評価もいただいた。

今日は市原課長が欠席しているが、県にもこの総体の実行委員会があり、県は今日、この解散総会を行っており、市原課長はそちらに出席している。

実行委員会の事務局は第一中学校にあったが、そちらに浜田

市教育委員会から派遣していた福田先生についても、第一中学校を11月いっぱい引き上げられ、12月からは浜田市教育委員会に来ていただいて、今、残務処理をしていただいている。福田先生の任期は12月いっぱいということになっている。

⑤ 11月30日（金）第31回中国地区国語教育研究大会島根県大会（国府小・浜田東中）

これは2年に1回、中国地区5県が持ち回りで行われるということで、島根県に回ってくるのが10年に1回ということになるが、そういった大会が行われたところである。

小学校は国府小学校と雲城小学校、合わせて7つの公開授業をされた。書写を合わせて7つの公開授業、中学校は1年から3年生まで3つの公開授業が行われたところである。

その後、中国地区から集まられた先生方から授業のことについて色々ご指摘、評価といったものをいただいた後で、提案もいただいた。昼からは文部科学省の黒田調査官が、公開授業の振り返り、反省といったご指導をいただいたあとで、ご講演をされた。講演の演題は「つけたい力を明確にした国語科の授業について」ということでお話をされた。学校の先生方には十分良く分かる内容だったのであろうが、実は私には難しいところがあった講演会だと思ったところである。

⑥ 12月3日（月）浜田市議会定例会《個人一般質問・1日目》

12月3日からは12月の市議会定例会が始まった。12月3日が提案説明、それから全員協議会、12月4日から7日が個人一般質問ということで、今回は21名の議員の皆さんから質問を受けたところである。そのあと、12月10日が議案質疑、12月11日が総務文教委員会、それから12月14日が予算決算委員会ということで、あとは明後日の表決、それから全員協議会を残すのみとなっている。

⑦ 12月4日（火）平成31年度島根県市町村立小中学校校長・教頭採用昇任候補者選考試験（第二次）結果発表

管理職昇任試験の合格発表である。第二次であるので最終の合格発表ということだが、浜田市の小中学校からは校長試験に6名の方が合格された。1名が女性である。それから教頭試験には、11名の方が合格されている。そのうち、女性の方が5名ということである。校長と教頭を合わせて17名の合格者ということである。

これは今、退職者がたくさんおられる中で代替わりをして、どんどんと新しい校長や教頭が昇任されているという状況もあるのだろうが、私が教育長になって5年が経ったが、17人もの合格者が出たのは今回がもちろん初めてである。先生方が一生懸命勉強されてこの試験に取り組まれているということが良く分かったところであるし、校長会等も色々と応援され、試験をされる先生方の事前のサポートといったものも組織として対応されているということで、素晴らしいことだと思っている。

今年合格された皆さん方も、来年度以降受ける皆さん方に何かしかり残しておきたいという様なことをお話されていたところである。

⑧ 12月9日（日）平成30年度浜田市学校保健会講演会（浜田市総合福祉センター）

毎年12月にあるのだが、浜田市の学校保健会の講演会があった。今年は「がん教育の始まり」ということで、島根県立中央病院の川上先生に来ていただいて、ご講演をお願いしたところである。

私は他の用事があって今年は出席できなかったが、市原課長に代わりに行ってもらった。市原課長から色々と聞いたが、何故今、がん教育が必要なのかといった様なことから先生のお話が始まり、現在、2人に1人は癌になる時代であるということの様である。尚且つ、日本人の死因のトップは癌であるということである。そういった中で、癌に対する知識を、子どもだけでなく大人に対しても情報を提供する、勉強してもらおうといった機会がなくてはいけないということを、この講演会の中で訴えられた様である。

学校におけるがん教育は、浜田市では弥栄中学校や第二中学校で取組をされているが、全ての学校でそういったものが進められているというわけではない。今後、このがん教育についても、学校保健会の指導を受けながらもっと多くの学校に広めていけたらと感じたところである。

⑨ 12月9日（日）第27回浜田～益田間駅伝競走大会（しおかぜ駅伝）

旧浜田市のチームは、最後までトップ争いをして、最終的には7秒差で2位になった。近年の結果は、今年が2位、去年が

3位、その前が2位、その前が3位ということで、2位、3位を行ったり来たりしている。そのうち1位になる日も近いだろうと思うが、そういったことで浜田チームが頑張ったということであるが、金城チームも38チーム中10位に入っているし、弥栄が15位、旭が18位ということで、三隅は今年は振るわなかったが、他のチームはそれぞれ去年の記録よりも大幅に上回ったということで、それぞれ頑張られた。

⑩ 12月11日（火）平成30年度島根県学力調査（各小中学校）

今年度の島根県の学力状況調査が行われている。これについては1月末頃には結果が返ってくるということであるので、楽しみな様な、恐ろしい様な気がしている。

⑪ 12月16日（日）浜田国際交流協会設立25周年記念講演会（浜田市総合福祉センター）

私は教育長として理事になっているので、参加した。50人くらいの方が参加をされた。島根県立大学は前身が島根国際短期大学であるが、その時から浜田市にはアジアの各国からたくさんの方の留学生が来ておられる。そういった中で、浜田市の国際交流というのは活発に行われてきたということがあるが、25年を契機に、一皮も二皮も剥けて、もっと大学生だけでなく観光客を呼ぶような取組も、国際交流協会として考えるべきでないかという様なご提案があったところである。

1か月間の報告は以上である。

今のところで、質問等はあるか。

質疑応答

藤本委員

1つ2つお伺いしたい。

まず1つ目に、先ほどのお話であった中高一貫校設置について期成同盟会があったということであるが、ここのところで、いわゆる高校の魅力化ということが出てくると思う。これは何年か前から出ていると思うが、まず、この高校というのは義務教育ではないため、浜田市教育委員会としても直接的には関わりがないと思っている。近隣の江津市とか益田市に行くと私立高校がある。その辺の取組というのを私は結構聞いていて、中々頑張っておられるなどと思っているが、公立高校ではそういった頑張りがないとみている。

そういった中で、高校の魅力化ということを言われるが、この

魅力化というのは何を狙っているのかということ、私自身、理解できていない部分がある。私なりの考えが1つ2つあって、1つは学力の向上ということが当然あると思う。それと、もう1つは大きな問題であるが、生徒確保という問題も一方ではあるのではと私は思っている。生徒確保というのは、日本全国津々浦々、人口がどんどん減ってきている中で、いわゆる奪い合いをしなければならない現状があると思っている。そのため、この魅力化というのは美しい言葉ではあるが、では具体的に目指しているものは何かということになると、人それぞれに思いが違うのではないかと私は思っている。

それからもう1つは、先ほど、浜田市の職員が提案された今福線を活かしたお話が映画塾で素晴らしい成果であったと言われたが、この今福線というものは確かに、財産ではないと思うが貴重な文化的な資産かと思う。では、これをどうするのかといった時に、保存すると言っても色々と保存する方法があると思うが、かと言って大金を投じてもそれに対する見返りというのは求めることは難しいと思うし、その辺のところは色々と議論をされる中で、どういう方向で保存に努めていくのかについて意見交換してほしいと思った。

石本教育長

最初に言われた高校の魅力化については、言われるとおおり、究極の目標は生徒確保、高校の存続といったところである。

まず、この高校の魅力化の取組は離島から始まって、それから今は中山間地域で進められてきた。そこまでいったあとに、昨年度から益田市や浜田市、大田市の様な海浜部のところもそういった同じ様な目標を掲げて取り組もうということになった。今、この事業に取り組んでいないのは出雲市と松江市だけである。それ以外のところは高校の定員が満たされていない。必ず1倍以内という状況が何年か前から続いていて、そういったことで生徒を確保するというのが究極の目的であろうというふうに思う。

ただ、その魅力化をどういった様にするのかということ、浜田市内は浜田高校、浜田商業高校、浜田水産高校と3つの県立高校があるが、それぞれ高校の役割は当然違う。そういった役割をきちんと果たすことができる様に、まず高校側から今からどういうふうに改善していけば良いかということ提案されて、それについて、地元の市町村で応援できることがあれば応援していこうというのがこの高校の魅力化の取組になろうかと思う。

地元が協力するということには、行政の支援もあるだろうし、色々な民間の企業の方々、地域の方々が応援できることはないかというところの取組もこの高校の魅力化ということである。

高校の魅力化ということから、最終的には教育の魅力化ということにつなげる。これは、いわゆる保育園や幼稚園の園児から高校を通り過ぎて浜田市には大学もあるので大学までということになるかもしれないが、その流れを浜田市の中で教育を受ける者は1つの最終的な目標があって、そこに向かってそれぞれの発達段階に応じた取組をしていくという様な、こういったビジョンを作り上げていくというのが最終的な教育の魅力化であろうと思っているが、当然ここでは高校の魅力化ということであるので、先ほども言ったそれぞれ3つの高校の特色を生かした取組というものをもっと強化し、中学生が高校を選ぶ時に、この高校に行きたいと思える様な高校作りといったものを目指すということであろうと思っている。

今までであれば、高校は義務教育ではないので県の教育委員会が行うことであるという様に片付けられていたと思うが、やはりそれは、先ほど言った様に、最終的に教育の魅力化につなげるためにも、高校の魅力化についても市町村も協力して、市町村の教育委員会も一緒になって、それについて考えていこうというところが、今までの発想と違うところではという気がしている。

藤本委員

関連するが、以前はそれぞれの高校が中学校に出向いて、学校案内を行っており、確か今もこれはあると思う。私は保護者ではなかったが、ある時に出席した。その時に、公立高校の先生や私立高校の先生も来ておられたが、やはり私立高校の先生方の学校案内というのは笑いを取る様な、非常にユニークな説明をされる。一方で、公立高校の先生はパンフレットを持ってこられて概要説明という格好で終わりである。そこら辺から、私は子どもたちが受けた感じが全く違うのではと思った。一方は私立であるから、強いて言えば給料に影響してくる話である。もちろん存続の問題も含めてである。公立の場合はそれが無いわけであるから、その辺の思いが大きく違うなというふうに数年前に私は思った。これは蛇足である。

石本教育長
宇津委員

ありがとうございました。その他にご意見はあるか。

分かる範囲で良いが、この度17人の管理職が誕生したといううれしい知らせである。この17人の方のうち、浜田市出身の方は何

人いるのか。

石本教育長

今、手持ちに資料がないのだが、4分の1か、3分の1ぐらいは生活の拠点が浜田市ではない方であるが、あとの4分の3か3分の2は地元の方である。

今までであれば合格して名簿に登載をされても、即昇任できるかというところでもない状況があったが、今は名簿に登載者で残っておられる方がほとんどいなくて、全部現場に出ておられる。今年通られた方はかなりの高い確率で、来年の4月からそれぞれ昇任して現場に出られるのではと思う。長い方は2年、まれに3年待つ方もあったが、そういったことはないかもしれない。

藤本委員

それからもう1つ、先ほど11月30日の中国地区国語教育研究大会のところでお話があったが、国府小学校と浜田東中学校であり、私は浜田東中学校へ行った。その時に、途中で驚くことがあった。教室を見て回っていたら、制服の違う生徒がいる。これはどうしたことかと思い聞いたところ、金城中学校の生徒が1つの教室に入って授業を行っていた。あの様なやり方があるのかと思い驚いた。

石本教育長

牛尾室長、持ち込み授業というものであったか。

牛尾室長

そうである。

石本教育長

他の学校の生徒が違う学校に行き、授業公開することを持ち込み授業と言うらしいのだが、それを今回行っていた。雲城小学校でも行っている。

藤本委員

先ほど小学校は言われたが、中学校は言われなかったので今、話に出した。

石本教育長

中学校も金城中学校が持ち込み授業を行っていた。

藤本委員

昔からあの様なやり方があるのか。

牛尾室長

ある。

藤本委員

私は知らなかった。

石本教育長

先ほど質問された、今福線の保存については、おそらく手をかけて保存をするということはないと思う。外から来られる方、交流人口を増やすという意味で、案内の看板を整備したりだとか、現場の近くまで見に行かれる様に道を直したりであるとか、そういったことは出るかもしれないが、大幅にお金をかけて何とかするという問題ではない。

結構マニアの方というか、こういったことが好きな方がおられて、県外からもずいぶんと来られる。身内が案内をしているので、

事情はよく分かるのだが、結構来られて、説明をして歩いている。そういったことで、せっかく来られるのであれば地元の野菜を売ってみてはどうかという話もあったりする。その辺のところでは地場産業と多少でも結び付けば、地元の方に喜ばれるかなと思うが、今のところは色々な方が地域に入って来られるということで、地元は喜んでおられる。

藤本委員

ある公民館が、こちらの見学を計画されて、その話を聞いた時に私が少し釘をさしたことがある。例えば、今、言われた様な案内看板であるとか、私はそういったものは最低限必要であると思っているし、それから、そこを眺めるためには道の草を刈ったり、多少の手入れはしなければならないと思うが、まかり間違ってもハード的なもの、例えば建築物を造るということになると末代において維持管理の問題が出てくる。言うのは簡単であるが、維持管理になると最終的には浜田市が全部しなければいけない。その辺は、深い議論をしてからでないともずいと思った。

石本教育長
各委員

その他はよろしいか。
特になし。

2 議題

(1) 教育委員会委員の視察研修について（資料1）

石本教育長

これについては、前回の定例会の中で、皆様方からどのような視察にすれば良いかというご意見を伺ったところである。それに基づいて事務局で少し素案を考えているので、これについて事務局から説明をお願いします。

日ノ原係長

それでは資料1をご覧いただきたい。実施日であるが、各委員からテーマ等ご意見をいただく中で、実際に受け入れ先と調整をさせていただく関係上、1月16、17、18日のところでお聞きしていたと思うが、その中で、候補地と調整する中で一応今は、実施日を1月17日（木）で検討している。移動手段としては公用車ということで、マイクロバス28人乗りを予定している。3のテーマにおける視察内容ということで、資料にある3点のテーマを挙げていただいた。

まず、1点目としては、開府400年に向けた取組として、歴史的なイベントを通して継続した教育の人づくりの事例ということで、事務局の素案としては萩市役所を挙げている。今年、萩市では明治維新150年記念事業を行うということで、学校教育におけ

る人づくりの取組についてという点での視察内容を検討している。

2点目としては、学力向上における特色ある取組事例ということで、広島県の加計中学校を挙げている。浜田市でも取り組んでいる協調学習の先進的な取組を行っており、5校時の理科の授業を視察し、その後、校長先生や授業者、町の教育委員会の指導主事等の説明及び意見交換という視察内容を検討している。

3点目として、教職員の働き方改革における先進的な取組事例というテーマに対し、視察先として広島県廿日市市教育委員会を挙げている。こちらはすでに平成26年度から校務支援システムを導入しており、導入までのところから導入時、導入後の現状についての説明及び意見交換ということで、この3点のテーマを準備した。

1点目①については文化振興課長から、②と③については学力向上推進室長から補足の説明をお願いしたい。文化振興課長から願う。

外浦課長

それでは①についてである。歴史的なイベント、歴史に関連付けた人づくりというところで、前回提案があった。山口県萩市である。明治維新150年ということで、萩市で色々を行っている様である。その中でも、ふるさと萩への誇りと志の育成という様なところで、点検・評価シートをインターネットで見させていただいたが、色々な事業を行っておられる。資料の3ページ目になるが、実施状況というところをご覧になっていただければと思うが、特に、⑤長州ファイブジュニア派遣事業は、中学生5人ではあるが、語学研修だけでなく、ゆかりの地の訪問とか、他の国との交流といったことも行っておられる様である。

実際に萩市の教育委員会学校教育課に問い合わせをし、この様な事業を行っているということであった。簡単ではあるが以上である。

牛尾室長

②の学力向上における特色ある取組事例ということでご説明する。広島県の安芸太田町である。この安芸太田町には、中学校が2校、小学校が4校ある。平成22年から、この協調学習ジグソー法というものに取り組んでおり、8年目になる。浜田市もちょうどその頃から取り組んでいるが、大きく違うのが、この安芸太田町は学校数が少ないということで、全小中学校の教員が、年間1回はこういうジグソー法で授業に取り組みましようということで積み

重ねている。そのためかなり深い取組ができていると思われる。

午後のところで、中学校の理科の授業を公開し、この授業を基に色々な話が聞けたらと思っている。かなりレベルの高い授業が期待できるかと思う。

それから③についてである。教職員の働き方改革における先進的な取組ということで、これも広島県で廿日市市教育委員会である。ここ廿日市市は、平成26年に校務支援システムを導入している。今年が5年目となるので、その導入前から、そして導入時の研修をどうしたのか、そして今、5年経って教職員へどの様な働き方改革や業務負担軽減がなされているのかという話を、こちらは現場に行くのではなく、教育委員会事務局から話を聞くということになるかと思う。

今、浜田市も導入をしたいと考えているので、ちょうど参考になる。ちなみにこの廿日市市であるが、中学校が10校、小学校が17校であり、ほぼ浜田市の規模と似ているというところもあるので、参考になるのではというところである。

石本教育長

ただいま、事務局から研修の候補地等について説明があった。ご意見があればお願いします。

藤本委員

今、3つの案があるが、今日この3つの案の中から1つに絞り込みができればという思いであるか。

日ノ原係長

そうである。

藤本委員

1月であるのであまり日にちもない。個別の意見を言っても良いのか。

石本教育長

②と③は午前中と午後で両方行ける様な気がするが、その辺はどうなのか。

日ノ原係長

廿日市市へ午前中に行くとは仮定して、廿日市市は教育委員会内での話になるので、視察の時間も90分程度をとれば、帰りはどちらにしても17時ぐらいになるが、北分庁舎を大体7時20分くらいに出発すれば午前中に廿日市市へ行き、昼から加計中学校ということで組めるかと思っている。

藤本委員

出発が早くても良いではないか。

石本教育長

7時20分に出発すると、萩市は無理であるが、加計中学校と廿日市市の2か所は見られるということである。その2か所にするか、萩も含めて1か所にするか。

藤本委員

個人的には、この②の加計中学校が協調学習というのをされているが、浜田市でもある学校では協調学習を行っている。これが

石本教育長
花田委員
宇津委員

どの様な思いでされて効果を持たれているのかということに、私も非常に興味を持っていたのだが、今、聞いてみると、やり方によっては②の加計中学校と③の廿日市市が1日でできるということであれば、多少出発が早くてもそちらの方が良いかなと、私は思う。

他の委員方はどうか。

早起きする。

①の萩市にこだわっているわけではない。欲張りかという思いがあるが、朝早いのは皆が協力すればできるのではないだろうか。

石本教育長
宇津委員

欲張ってみるか。

理科の授業を見させていただくということであるが、先ほどの牛尾室長の話聞いて、おそらくかなりインパクトがあるのではという気がする。規模的にも安芸太田町の学校数は少なく、そういう背景があつてより効果を出しているというところもあろうかと思うが、廿日市市は浜田市と似通った規模になるので、参考になるかという気がする。朝早いのはいくらでも対応できる。

石本教育長
金本委員
石本教育長

ありがとうございます。金本委員はいかがか。

皆さんが言われた様に、たくさん勉強する。

今の委員方のご意見をお伺いする中では、②の加計中学校と③の廿日市市のところを1日で回るといった意見が多かったが、本当に回れるのか。

日ノ原係長

大丈夫である。ただ、もし大雪が降った場合には、午前中の廿日市市は飛ばさせていただくという形でもよろしいか。その時は授業公開の加計中学校のみにさせていただく。昼に着くことは可能であると思う。仮に雪が降った場合には、廿日市市には申し訳ないが。

石本教育長
日ノ原係長

安芸太田町は雪が多いところである。

両方行けなくなるくらいの雪が降れば難しいが、仮に行先を2つ組んだ場合に雪が降り、昼の到着になる場合には廿日市市の方をなくさせていただくということもあり得る。

石本教育長

承知した。それでは委員方のご意見をまとめて、①の萩市については、前回、宇津委員から意見をいただいたところであるが、2つ行けるということで、②の加計中学校と③の廿日市市を今回は視察に行くということで決定させていただいてよろしいか。

各委員
石本教育長

全会一致で承認

ありがとうございます。それでは、②学力向上と③教職員の働

き方改革の部分について、午前中が廿日市の教育委員会、午後から加計中学校を訪問するというので、また日程を組ませていただく。

事務局からあった様に、朝7時20分ぐらいに教育委員会を出発ということになるかと思うので、またご協力方よろしくお願ひしたいと思う。1月17日(木)である。よろしくお願ひする。

(2) 浜田市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について(資料2)

日ノ原係長

来年度、4月1日からの機構改革に伴う教育委員会の関係規則についての改正という形になる。資料2をご覧いただきたい。大きく2点あるが、私から一括してご説明する。

まず、資料2の新規・改正規定概要説明資料の4概要というところをご覧いただきたい。

最初に、青少年サポートセンターの統合ということで、青少年サポートセンターという課が4月1日には学校教育課に統合して、学校教育課の中の係として青少年サポートセンターとするというものである。

2つ目としては、幼稚園事務の一元化による分掌事務の変更ということで、先般、委員方にお話しさせていただいた様に、幼稚園事務については、来年度から子育て支援課で事務を行うというところで、教育総務課の総務企画係で併任をする形になるので、事務分掌でもこの教育総務課総務企画係に集約をして、教育総務課総務企画係を併任する市長部局職員が事務を行うといったものになる。

詳しくは、3ページの新旧対照表をご覧いただきたい。左側が現行、右が改正後(案)という形になっている。まず、第2条の部、課、係というところの左側の原稿でいう下から3番目の青少年サポートセンター育成支援係というところが、右側では上から3番目の学校教育課の中に、青少年サポートセンターという係が入る形になる。

続いて裏面の4ページをご覧いただきたい。総務企画係の(14)のところから太字になっている。現在、学校教育課の事務分掌にある、幼稚園関係の就園や就園援助や、(20)に書いているその他幼稚園に係る事務については、教育総務課の総務企画係で一時的に行っているが、本来の事務としては学校教育課の学事保健係になっており、その文をまずこちらにもってきている。

そして(16)は、施設給食係に学校教育施設の維持管理及び修繕に関することを行っているが、幼稚園に係るものについてはこちらの総務企画係にもってきている。(17)から(19)のところでは学校教育課の主に保健衛生や学校医、学校薬剤師の関係のものになるが、これについても幼稚園に係るものについては総務企画係にもってきている。

続いて8ページをご覧いただきたい。左側の現行の欄に、青少年サポートセンター育成支援係に事務分掌が4つある。この(1)子ども・若者育成支援に関することと、次のページの(4)子ども支援センターに関することの2つが、7ページの学校教育課の中の青少年サポートセンター係に移行し、この係でこの2つの事務分掌を行う。

それから、現行にある(2)青少年健全育成に関することと、(3)青少年に係る社会教育関係団体に関することの2つは、7ページに戻っていただいて、真ん中どころの生涯学習課生涯学習係の事務分掌となっているが、改正後(案)でまず、(6)の社会教育関係団体に関することというものを、元々生涯学習課で行っているのので、青少年に係る社会教育関係団体についても生涯学習係で行う。また、(7)青少年健全育成に関することについては追加ということで、生涯学習係で所管するという形の変更になっている。

次の事務処理規則も併せてであるが、こちらは今回、12月議会で機構改革の関係の条例が出ているので、それとの成立に合わせて今日承認された上では、12月の下旬に一緒に公布という予定になっている。

石本教育長

ただいま説明があった。概要のポイントとしては2点あった。青少年サポートセンターは今、単独の課として存在しているが、それを学校教育課の中に移設ということで学校教育課青少年サポートセンターということで位置付けをするということである。それに伴って、事務分掌等も移行があったところである。

それからもう1点は、幼稚園の特に窓口事務の関係である。そういったものについて、子育て支援課に一本化するということである。ただ、幼稚園は学校教育法に基づいて教育委員会が設置している施設であるので、教育委員会の業務ということで、子育て支援課の職員が教育委員会の職員としての併任発令を受けて、その中で教育委員会の職員として事務をされるということである。

そのため健康福祉部の部長も、教育委員会の部長の位置付けが

あるし、子育て支援課長も教育委員会の職員としての位置付けがあるということである。これは次の事務処理規則の改正のところであるが、そういったことで2つの組織について機構改革に基づいた規則を改正するといった提案であった。

委員方から何か質問等があればお願いします。

各委員

特になし。

石本教育長

特に意見等ない様である。それでは、提案のとおり規則を改正することでよろしいか。

各委員

全会一致で承認

石本教育長

ありがとうございます。それではご承認いただいたということで、手続きをよろしくお願いします。

(3) 浜田市教育委員会事務処理規則の一部を改正する規則について (資料 3)

日ノ原係長

先ほどと目的、理由は同一で、機構改革によるものである。先ほど2点あったうちの1つ、幼稚園事務の関係の部分であるが、教育長が申したとおり、市長部局の職員が教育委員会の併任身分として事務を行う。その中で4概要の(1)の中に書いているが、併任する案としては、教育部長というものが健康福祉部長の併任身分として、教育部参事、また、教育総務課長の専決事項を子育て支援課長が教育部教育総務課副参事として専決を行うことになると思われる。

そうなった際、現在、こういった教育部長の専決事項であったり教育総務課長の専決事項を参事と副参事に移譲するものがないため、浜田市専決規則の中にはそういった専決権の移譲というものがあるので、今回、この事務処理規則にもこういった専決権の移譲ができるという専決規則を加えることにより、行いたいというものになっている。

もう1点が、別表の中第3項に次の1号を加えるということで、(5)幼稚園の入園等に関することとあるが、これについては保育所の専決事項で保育所の入所等に関することということが、子育て支援課長の専決事項にあるが、現在、教育委員会学校教育課長にはこの部分がないため、保育所に合わせて同じ様に、幼稚園の入園等に関することというところも専決事項に加えるといったこの2点の改正になる。

石本教育長

ただいま、事務局から説明があった。概要のポイントは2点あるということである。

1点目は健康福祉部局の部長と課長がそれぞれ教育委員会の部長、それから教育総務課長の専決事項について併任ということであるので、同じ様に専決ができる形を作るという点である。

それから2点目は、子育て支援課長には保育所の入所等に関することという表現があるが、教育委員会には幼稚園の入園等に関することというのは専決事項にないので、保育所に合わせて、今回、同じ様な言い方を加えるという点である。

この2点について、委員方から何かご質問はあるか。

各委員

特になし。

石本教育長

それでは、特に意見もない様である。提案のとおり規則を改正することでご承認いただけるか。

各委員

全会一致で承認

石本教育長

ありがとうございました。それでは、規則を改正するという事でご承認をいただいた。

(4) 教育長の職務に専念する義務の免除の承認について (資料4)

石本教育長

毎年この時期に出させていただいている。今年も人間ドッグに行かせていただこうと思う。事務局から説明をお願いします。

日ノ原係長

平成27年度に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律というものが変わり、いわゆる新教育委員会制度ということで、教育委員長と教育長を統合した新教育長ということで、浜田市教育委員会でも石本教育長が就任されている。

その中で、教育長の職務に専念する義務の免除というものは、浜田市長の権限に属する事務の委任及び補助執行に関する規則の規定によって、教育委員会の承認事項という形になっている。今回、昨年度と同様に人間ドッグを受診されるということである。今年度は1月31日の受診ということで、疾病の予防、早期発見の寄与と健康増進を図ることが目的であるので、人間ドッグの職務免除の申請承認をいただきたいというものである。

石本教育長

疾病の予防と書いてあるが、すでに病気である。

こういったことでご承認していただいてよろしいか。

各委員

全会一致で承認

石本教育長

ありがとうございました。

宇津委員

しっかり診てもらってください。

石本教育長

申し訳ない。それでは、1月31日は1日職務を免除させていただくので、よろしく願います。

(5) 浜田市指定文化財候補について (資料 5)

石本教育長

2点の文化財候補があるということである。これについて事務局から説明をお願いする。

外浦課長

1つは、古文書で旧浜田町役場文書(近世分)である。もう1つは、めくっていただいて浜田大名行列奴、奴隊である。

まず、古文書についてである。現在、浜田中央図書館にある庄屋文書と町方文書のそれぞれ2種類から構成されており、50点の文書である。明治22年に浜田町が成立した際に、行政文書の資料として集められて保管されたと考えられている。

庄屋文書からは、当時の田畑の面積や年貢の額、人名、また公共施設の場所になった場合の年貢の免除といったものの過程が確認できるものとなっている。当時の原井村に住んでいた人名、それから事業の様子分かるものである。

町方文書についてである。1つは、小路と悪水溝の幅を変えた際の帳簿である。西暦1700年後半、江戸時代に、浜田の町の様子や長さが分かるだけでなく、町名などの情報が分かるものである。

町方文書にはもう1つあり、土地の質入れについての帳簿等確認されたところがあり、当時の行政の1つのしくみが分かるものである。こういったものが今回まとまった形で伝来している点が大変貴重である。次にめくっていただくとカラー刷りの写真があるが、絵図と合わせて検討することができる点も重要である。保存状態が良く、江戸時代の浜田の町の様子を知る基本資料として貴重なものである。

次に、浜田大名行列の奴隊についてである。ご存知であると思うが、毎年、浜っ子春まつりで行われている大名行列の先頭部分が奴隊である。昭和30年代頃まで、地元の松原で行われていた大名行列であるが、現在は大名行列保存会が継承しておられる。今回、これを指定文化財として保存していこうということであるが、教育委員会として文化財審議会へ審議していくことを承認していただければと思う。

石本教育長

ただいま、2点の浜田市の指定文化財候補について事務局から説明があった。1点目が旧浜田町役場文書ということであり、庄屋文書44点と町方文書6点があるという説明であった。

それからもう一方は、浜田大名行列ということであったが、こ

	れは奴隊ではなく奴が正しいのか。
外浦課長	そうである。
石本教育長	ふつうは奴隊と言う。
金本委員	奴である。
石本教育長	失礼した。奴だそうである。 ということで、今、2点の候補が挙がった。これについて審議 会に諮るのはいつ頃になるのか。
外浦課長	予定だと、来年の1月か2月の初めである。
石本教育長	承知した。 これは開府400年と関係があるのか。
外浦課長	偶然にも開府400年と同じ年であり、そういったところを加味 した取組がされればよい。
石本教育長	承知した。 委員方からご質問等あるか。
藤本委員	これを最終的には文化財審議会で諮っていただくわけか。
石本教育長	そうである。文化財審議会に諮ることについて、今日、承認を するということである。 浜田市の指定文化財は最近なかったのではないかと。しばらく諮 っていない。
外浦課長	平成26年頃が最後である。
石本教育長	平成26年頃から全くなかったということか。では、かなり久 しぶりということである。
宇津委員	私は特に意見はない。
石本教育長	委員方は特にご意見がない様である。それではここにある、旧 浜田町役場文書と浜田大名行列奴について、浜田市文化財審議会 に審議をお願いするというのを、この場で認めていただくとい うことでよろしいか。
各委員	全会一致で承認
石本教育長	ありがとうございます。それではこの2件について、文化財審 議会で審議していただく様にまたお願いしていきたいと思う。
藤本委員	1つよろしいか。私はこういうことに無知であるが、大名行列 の種別は無形民俗となっているが、有形ではないのか。
外浦課長	無形である。奴は所作などが指定の一番のポイントである。
藤本委員	承知した。
石本教育長	これについてもご承認いただいたということで進めさせてい ただく。

3 部長・課長等報告事項

佐々木部長

個人一般質問 通告一覧(平成30年12月定例会)(資料6)

それでは資料6をご覧ください。この度、12月議会で一般質問があった内容を取りまとめている。教育長からあった様に、今回は21人の議員が質問をされ、そのうち教育委員会の関連では12人の議員から質問があったところである。簡単に説明したいと思う。

6ページから答弁の原稿である。初日の澁谷議員から、まずコンベンションホール建設についてという内容、それから2つ目には幼稚園教育についての内容、それから3つ目に教育委員会会議の活性化についてということで、これが8ページ目にあるが、こういった3つの質問をいただいた。

特に、教育委員会会議の活性化というところでは、委員方にはしっかり現場を把握していただき、この会議で意見の提言をしてもらいたいということや、今回の視察については日帰りではなくできれば一泊して、夜の意見交換も大事であるという様なご意見もいただいたところである。

9ページの道下議員からは、学校教育におけるインターシップ、いわゆる職場体験であるがこれに関する質問と、それから出前授業の充実についてということ、それから部活動の外部指導員の確保についてという3点の項目について質問をいただいたところである。

それから2日目はまず、15ページの西川議員から、サン・ビレッジ浜田についてこれまでの経緯であるとか、現状、あるいは今後の方針について質問をいただいた。

21ページからは小川議員の質問である。これは、学校のICT、いわゆるコンピューターなどのICT導入のところのリスクについてというところで、このICT環境整備の方針であるとか、あるいは財源の考え方、それから、子どもに与える影響への対策等についての質問をいただいたところである。

25ページからは村武議員の質問である。これは海を活かした教育についてであるが、海洋教育についての現状あるいは成果、または今後の方針に関しての質問をいただいた。また、29ページからは奨学金制度についての質問があったところである。

3日目が31ページからになる。佐々木議員からは学校図書館の活用教育について質問をいただいた。特に、この学校図書館の活用教育については、今の取組であるとか、あるいは学校図書館司書の処遇、あるいはこういった学校図書館活用教育の取組の情報発信、あるいは今、県が見直しを検討しているが、この事業に対する補助金削減方針の対応等について質問をいただいたところである。

36ページからは三浦議員の質問である。三浦議員は全て教育委員会への質問だったが、最初に、社会教育の振興ということで、社会教育の基本的な考え方であるとか、今の状況、それから公民館の役割、あるいはあり方についての質問、それからコミュニティ・スクールの検討についての質問、最後には高校の魅力化、あるいは高校の魅力化に関わるコーディネーターの配置であるとか、推進体制の整備についての質問をいただいた。

48ページからは笹田議員の質問である。これは浜田市のロードマップの中の項目で、学力向上についての質問をいただいた。この学力の向上に関しては、まず1つ目に、国語教育の充実、それから2つ目に基礎学習の定着、3つ目に家庭学習の充実、最後に教員の授業力向上について、それぞれの評価についての質問があったところである。

52ページからは野藤議員の質問である。これは浜田開府400年事業について、今の浜田城の城下町の散策コースであるとか、説明版の設置についての質問があったところである。

53ページからは芦谷議員の質問である。歴史を生かしたまちづくり、いわゆる歴史文化基本構想とか歴史地図と言って、これは浜田高等学校で作られたものであるが、その活用などについての質問と、それから県立大学を生かしたまちづくりについてということで、高校の魅力化と県立高校の位置付けについての質問があった。

4日目が56ページからになる。まず、西村議員からエアコンの設置について、具体的には整備内容や財源、あるいは特別教室や体育館への設置についての考え方の質問があった。60ページからはトイレの洋式化について、現状であるとか、今後の整備計画についての質問をいただいた。

最後に、62ページからは沖田議員の質問である。要保護事業、

就学援助についての質問があった。具体的には現状、あるいは浜田市が増加している要因であるとか、あるいは制度の周知方法、また、この就学援助の採択の基準であるとか決定権、そして財源、あるいは今後の方針等についての質問があった。

それぞれの質問については、また後ほど答弁の原稿を見ていただければと思うのでよろしく願います。

古森課長

行事等予定表（資料7）

これから先、1か月の行事の予定である。まず明日、人権作品のコンクールがある。ご案内させていただいていると思うが、15時半からであるのでよろしく願います。それから、正月休み中ではあるが、1月3日午後に成人式があるので、ご出席をお願いします。その他に、浜田市駅伝競走大会であるとか、浜田市人権・同和教育講演会といったものがあるので、ご都合のつく範囲でご出席いただければと思う。

それから予定表には入っていないが、先ほど決定した1月17日（木）の委員方の研修を追記しておいていただければと思う。また、最終的な朝の出発時間などは後日お知らせしたいと思うので、よろしく願います。

牛尾室長

第8回(12月)市校長会資料レジュメ（資料8）

12月の浜田市の校長会と教頭会で配った資料である。

1つ目が、「学校だより」の巻頭のことばについてであった。毎月、学校だよりが教育委員会に送られてきたりホームページにアップされたりしているが、その学校だよりを私も読ませてもらっている。不定期に、本当に数号、たくさん発行している校長もおられる。この、月1回の学校だよりの巻頭のことばのところに、校長先生方の思いや教育観、校長の顔が見えて素敵であるということをお伝えた。例えばという形で、資料にある様なテーマを入れて校長先生方の考えや思いを述べられている。学校だよりの巻頭のことばには、校長の思いや教育観、校長の顔の見える学校だよりであってほしいという願いも込めて、こういったことをお伝えした。

それから2つ目である。授業改善の充実に向けて【その4】ということで、資料Aをご覧いただきたい。今、前原指導主事にアドバイザーとして関わっていただいて、算数と数学の研究

指定校に、雲雀丘小学校と第二中学校を指定しているが、第二中学校の今の取組状況ということでお知らせした。

50分の授業のまず前半の35分に、当然教えるべき内容があるので授業をする。そして後半の15分で、その授業を基にした適用問題、いわゆる練習問題を習熟度テストプリントで取り組む。一人ひとりにできたぞ、やったぞという充実感や満足感を持たせたいという願い、それから学力差があるわけであるが、学力下位層の生徒には1問でもできたという思いを、これは学力の中位や上位層の生徒にはもっと難しい問題にも取り組みたい、それぞれの層に合った習熟度の取組はできないであろうかという願いと、それから中々学習に向かいにくいという状況もあり、特に学力差の大きい数学において、何か起爆剤となる方法はないだろうかということも1つである。

それから特に3年生の高校受験ということもあるので、やはり上位層を伸ばしていかなければならないということも踏まえて、前半の35分で授業を構成する、後半の15分で習熟度別の3段階のプリントに挑戦するということである。もちろん35分で授業を構成するということになる、15分短くなるわけであるから、当然授業の工夫も必要となるが、まず15分の適用問題の時間を確保するという事に全力を注いでいる。

これを9月から始めた。9、10、11月と12月にも入っているが、生徒たちは自分にあったプリントを選択することが段々できてきて、下位層の生徒たちは、やはり傍に就いて指導しなければ中々難しいところがあるが、取り組み始めたということである。特に、上位層の生徒の意欲が向上しているというところが大変良かったと思う。生徒が難問に取り組みたい、例えば、平成何年度の入試問題とか、灘高の入試問題であるとか、そういうものを括弧書きで示して、そこを挑戦するぞとか、そういう知的好奇心であるとか、そういうプライドに訴えることは大切なことである。まだまだ取組途中ではあるが、3学期にも公開授業をしていく。

その裏をご覧いただきたい。前田先生のお話であるが、全部は紹介しないが、2つ目のひし形のところである。今、全国的な数学の出題問題の傾向が変わってきたということで、これは入試問題に限らず、全国学力調査や県の学力調査でもそうであるが、計算問題が減少し、記述問題は大きな変化がない。では、

何が変わってきたのかというと、対話文の形式の問題が増加してきた。これは、理科や社会も同様である。問題や文章題、ページ数は増加している。これはやはり、今度、大学の入試問題が変わるというところから、出題問題の傾向も変わってきた。そのため、ここに読解力と思考力が求められるということがある。塾は学校よりも早くからこういう対応をしているので、やはり学校も問題文、問題形式に慣れることが必要であることは繰り返し言われる。そのため、全国学力調査の問題を活用する授業であるとか、浜田市教育研究会でそういうことに取り組むことはできないかということも投げかけたところである。

レジュメに戻っていただきたい。3つ目の市教委の授業やインターネット等の活用状況について、アンケートを取らせてほしいとお願いをした。現場の校長や教頭には、学校経営を行うにあたり、浜田市の予算に基づいて運営がなされおり、そこには大きな予算があるということは知ってほしいと思い、このことを伝えた。3行目のところからである。予算は毎年削減の方向で、事業運営も厳しくなっている。貴重な予算を有効に活用していくことが求められるということで、今、浜田市の事業、あるいは予算の中で大きく占めている部分が、学習プリント配信システムの事業と、ネットワーク環境に関する事業、タブレットであるとかその導入のための予算の数字を示している。今の時代の流れであるので必要なことであるのだが、かなりの予算を投入している。今後はセキュリティの強靱化や校務支援システムの導入に向けてかなりの予算が必要になってくるので、現場のニーズにあったシステム、事業に予算を有効に使う必要があるということで、資料の裏になるが、全部は説明しないが、では今、学習プリント配信の活用状況はどうであるか、活用している教科は何であるか、あまり使わない教科は何であるかということを知りたい。

それから今、小学校はタブレットを導入している。スカイメニューという支援ソフトも導入している。この活用状況はどうであるのか、来年度は中学校にタブレットを導入するわけであるが、ここにどの様なソフトが必要であるのかという辺りを問わせていただく。

そして3番目に、職員室など色々なところでインターネットを使わざるを得ない状況があるが、どの程度使っているのかと

村木課長

ということについて。事務や管理職、あるいは担任になった時に使っているのか、アンケートを活用してより有効に活用できるように、またこちらで検討をしていくということを伝えた。

「島根あいてい達者」知事表彰「芝田總一郎さん」
優良少年団体表彰「西村子供神楽社中」（資料9）

社会教育関係の表彰のご報告である。島根あいてい達者知事表彰と、優良少年団体表彰である。上段の島根あいてい関係は、県の情報政策課である。下段の優良少年団体というのは県の社会教育課がそれぞれ所管している。それぞれ、美川公民館や周布公民館から挙げたものである。島根あいてい達者については、平成15年から活動をしている、いわゆるITの推進である。10教室に10人が通う、合計100人が会員となり取り組んでいる。実際に、美川公民館である事業等のポスターなどを全部この団体が作るといった、いわゆる社会貢献、生涯学習としての地域還元といったところが評価された。

優良少年団体表彰の西村子供神楽社中においても、事業を展開してきたが、保育園児から高校生まで22人の団員がおられ、大人が子どもに神楽を教えるということが評価された。

それぞれ、表彰日は今からであるが、本日ここにご報告させていただければと思う。

平成30年度 島根県公民館研究集会（資料10）

久しぶりに公民館関係の県大会が、浜田市で行われる。2月11日（祝）建国記念の日である。具体的には、今、公民館の活動が地域課題解決の支援に向けているということで、島根県の事業がある。地域課題解決型公民館支援事業と3段目にあるが、これについての成果報告発表会を、浜田市で行うということである。会場も画期的で、中学校をお借りしてそれぞれの中学校のクラスごとに体験発表をする。どうしても大きなところで発表すると、やっても5つ程度である。しかし、今回の様に中学校のクラスを使うことによって、30の発表ができるということを考えている。

ページをめくっていただいて、テーマが全部で5つある。若者の地域参画、生活課題の解決、防災、子育て、その他となっている。それぞれ、社会における課題解決に公民館等が関わっ

ている。いわゆるコミュニティーセンターも社会教育の拠点であるため、公民館「等」となっている。当日は、隠岐も含めた県下の市町の公民館とコミュニティーセンターが集まって実践発表をする。これに先立ち、浜田市の公民館連絡協議会の実行委員会を作り、資料にある様に、瀧口長浜公民館長を頭とし、それぞれ市木公民館の尾崎部長とか、三隅の三浦部長などが担い、実践発表も第1分科会から第10分科会まであり、さらに3つの発表があるので合計で30本である。これを各分科会で発表する。そこには全て公民館主事の司会と会場係がついてファシリテートをするということで、浜田市の公民館職員の1つの研修という位置付けで、実際に今、これに取り組んでいる。

次のページをご覧いただきたい。浜田市としては4つの公民館がこの事業にエントリーしており、石見公民館、美又公民館、井野公民館、白砂公民館がそれぞれテーマごとに発表することになっている。

石見公民館は後ほど、図書館でも話すが、社会貢献の推進ということで、読み聞かせのスタートのきっかけ作りをということで事業展開している。

美又公民館は地元の地域で妖怪ということがある様で、その地域資源である伝統を生かし、温泉組合や保護者世代とつなぎをここで課題解決したいということである。

井野公民館においてもやはり若手が集まって、まずは楽しいことから始めようという、要は社会教育の手法を取り入れた事業展開である。

白砂公民館も、同じく、やはり子どもたちに何をすべきかというテーマの中で、保護者世代をどの様に巻き込むかということテーマにしている。

4つの公民館がそれぞれほぼ共通しているが、やはり若手世代をどの様に社会教育、社会貢献、社会に取り入れるかといったテーマで発表することとなっている。それぞれ、社会教育主事の先生方にお世話になりながら、まだまだ道半ばであるが、2月11日には発表ができると思っているので是非、委員方もご出席していただければと思っている。

HOOP! (はまだ親子共育応援プログラム) 3回シリーズについて
(資料11)

これはHOOP！（フープ）と言うものである。家庭教育支援事業ということで、この度、地域医療対策課や子育て支援センターと一緒にこのHOOP!というはまだ親子共育応援プログラムを作り進めており、第1回目が終わったので今日ご報告する。

具体的には1つのテーマを専門的な先生からアドバイスをいただいて、それに伴って子育て支援センターに集まってきた若い親子の方々とワークショップや話をしながら、気付きがあったり学びがあったりということを、60分のプログラムを組んで行っているところである。

第1回目はあさひ診療所の宮本先生に「メディアで子育て大丈夫？」というテーマで、専門的なお話を聞かせていただいた。その中で、先生としては五感で子どもを育てましょうという様なキーワードの中で、集まった若い親子の方々に色々なグループになって話をしてもらおうというものであった。

第2回目は明日であるが、保健師による親子の絆というテーマで、2月は、中央図書館長であり元校長である宇谷館長に、いわゆる小学校の1年の壁というか、小学校に上がるまでの親子の家庭的なところをやっていこうと計画している。

定員は、だいたい10組の30人程度と思って実施しているが、アンケートにもある様に、やはり参加して良かったとか、第1回目はメディアであったので、メディアの及ぼす影響が分かったという様な感想をいただいたところである。

第27回浜田一益田間駅伝競走大会（しおかぜ駅伝）の結果 (資料12)

冒頭、教育長からもご報告があったとおり、しおかぜ駅伝の結果である。結果的には、浜田市は2位という結果であったが、本当に僅差の試合となった。また、他自治区のチームも前回よりアップしたということもあるし、弥栄チームにおいては敢闘賞も取ったといったところである。区間賞も浜田の福濱君がとったということである。

それから資料には載せていないが、しおかぜ駅伝開催の裏では、浜田走路、三隅走路それぞれ多くのボランティアの方に走路員や準備に手伝っていただいた。実行委員会を開きながら、周布公民館や三隅、それぞれ現地での説明をして特に大きな問題も

なく、しおかぜ駅伝が無事終了したことを、併せてご報告申し上げます。今、それぞれ関わった人たちから、来年はこうした方が良いという振り返りの資料を集めているところである。

読み聞かせ講座受講生の「お話し会」デビューについて
(資料 13)

先ほど申した石見公民館の取組である。読み聞かせ講座ということで、石見公民館が主催となって、本を読んで元気になる講座ということで、今回、石見公民館で 17 人の一般の方が、読み聞かせのスタートを切ったところである。そのうちの 2 人が、中央図書館で先般、デビューしたという様なお報告をいただいている。

先ほど、議会報告でもあったが、社会教育施設のあり方が、今、取沙汰されている。生涯学習課は今年度から、図書館という社会教育施設が一緒になった。今、公民館も図書館も同じ課の中であるので、こういった形につながり合って社会教育施設の有効活用について今後も進めていきたいと思っている。

それから、児童クラブや公民館でそれぞれデビューしたと聞いている。この辺のもって行き方とか感想については、2 月 11 日に石見公民館が発表すると聞いている。

村瀧室長
(代理:三浦係長)

平成 30 年度浜田市人権・同和教育講演会 (資料 14)

開催は 1 月 19 日午前 10 時 30 分から 12 時 10 分までである。場所は浜田公民館である。内容は「わくわくどきどき心地よく～出逢いに感謝～」と題し、岩崎巖さんにご講演いただく。岩崎さんは目が不自由になったのがきっかけで、63 歳からハーモニカを始められ、現在、地域の行事、保育園や幼稚園、高齢者の集い、各種イベント、コンサート等で演奏活動を行っておられる。そして、この活動を通して得た前向きな気持ちを音に乗せ、メッセージとして伝えておられる。

浜田市障がいのある人もない人も共に生きることができるまちづくり条例を制定した初年度に、ハーモニカの音色を通して私たちの心を奮い立たせてくださると期待している。たくさんの方にご来場いただき、共に学び、人権感覚を育んでいきたいと考えている。

石本教育長	以上資料のあるところについては報告いただいた。資料がない課で報告事項等あるか。
各課長	特になし。
石本教育長	今、部課長方から資料 6 から 14 までの報告があった。これについて委員方から質問等あればお願いします。
	質疑応答
宇津委員	先ほど行事予定表のところ、1 月 30 日に浜田市 PTA 連合会との意見交換会とあるが、教育委員会の方の出席は、部課長さん以下の出席か。
古森課長	教育長と事務局の職員で対応する。
宇津委員	我々委員との交換会とはまた別であるか。教育委員と PTA の意見交換会を行ったこともあるのだが、今年度はそういった交換会は計画されているのか。
長見所長	今年度は計画していない。
宇津委員	承知した。
石本教育長	PTA が希望されていなくてもこちらからやりましょうと言う手はあるかもしれない。
長見所長	ただ、今年度は会長が去年に引き続き浜田東中学校の方で、事務局を国府で持っておられ、とても変則的で、中々その辺が難しいかと思い、敢えて今年度は何も言っていない。
石本教育長	承知した。また要望があれば是非やってみてはと思うのでよろしくお願いします。
	他にあるか。
	資料 10 のところで、県の公民館関係の研修会開催のお知らせがあったが、教育委員方にはこれから案内文書を出すのか。
古城係長	また改めて送付する。
金本委員	申し訳ない。個人的なことであるが、先ほど、石見公民館のお話会デビューをされたという話があった。三隅図書館で私たちもお話会を行うのだが、そこにも来ていただけたらと思う。私たちもずいぶんと自転車操業している。
古城係長	参加者の皆さんもそういった活躍の場を求めておられると思う。承知した。
石本教育長	17 人おられるので是非頼んでみてはどうか。
	聞き漏らしたのかも知れないが、先ほどあった HOOP! の 1 回目は何人くらい集まられたのか。

古城係長	定員 30 人であるが 12 人であった。少なかったが、お父さんとお母さんが一緒に出ていただくということもあった。
石本教育長	毎回、定員が 30 人ということではないか。
古城係長	最大 30 人である。
石本教育長	承知した。
各委員	その他、委員方からご質問はあるか。 特になし。

4 その他

(1) その他

石本教育長	その他について、事務局から何かあるか。
日ノ原係長	特になし。

次回定例会日程

定例会 1月25日(金) 13時30分から 北分庁舎2階会議室1

次々回定例会日程

定例会 2月27日(水) 13時30分から 北分庁舎2階会議室1

15:17 終了